

# 国際会議参加報告（京都会議記念基金）

2021年5月24日～6月4日に、IWA Digital World Water Congress 2021がバーチャルで開催されました。本会では、より多くの会員の方が国際会議で活躍されることを願い、京都会議記念基金事業として、IWA世界会議およびアジア太平洋地域会議参加者への助成を行っています。

今回は、栗田貴宣氏が選考され、会議の報告を書いていただきましたのでご紹介します。

## IWA Digital World Water Congress に参加して

大阪工業大学工学部環境工学科 栗田 貴 宣

### 1. はじめに

この度、「日本水環境学会 京都会議記念基金（海外発表渡航費用助成）」に採択していただいたことは非常に栄誉あることであるとともに、世界中の研究者が参加可能なオンライン国際会議に参加して筆者らの研究成果を口頭発表できたことは貴重な体験であったと感じている。この場をお借りしてお礼申しあげる。

IWA Digital World Water Congress は今現在も世界中で猛威をふるっている COVID-19 の影響によって開催を延期・断念したこれまで隔年で開催されていた IWA World Water Congress をオンライン形式で実施しようと企画されたものである。

### 2. 会議概要

IWA Digital World Water Congress は2021年5月24日から6月4日までの8日間にわたって開催され、それぞれ週の初めに Opening と Keynote 発表が行われた。また、オーラルセッションは6つの分野に分けられており、全体で54のセッションに分かれて実施された。各セッションは3件のオーラルプレゼンテーションとその後に Chair および Co-Chair を交えて質疑応答を行うという形式であった。また、317件のポスター発表についても並行して実施された。

### 3. 口頭発表

1つのセッションあたり約1時間で構成され、並行して3つのセッションが執り行われるという形で進められた。セッションごとに座長を交えてどのようにセッションを運営すると聴講者にとって有意義になるかということを用意オンラインで意見を出し合った。筆者は6月1日（5日目）のセッション28「Operation of full-scale WWTP」に参加した。このセッションでは下水処理プラントの運転に関する発表が執り行われ、様々な視点からそれぞれの問題を解決する下水処理プラントの運転方法についての

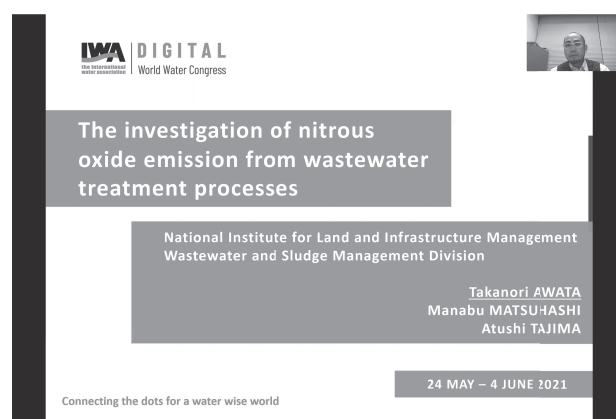


図1 筆者発表の様子

発表・質疑がテーマであった。筆者は、「The investigation of nitrous oxide emission from wastewater treatment processes」と題する発表（図1）を行い、下水処理場の運転方法というよりは、下水処理場から通常運転でどれほどの温室効果ガスである  $N_2O$  が発生しているかの調査結果について報告をした。「 $N_2O$ 発生量に最も影響する因子は？」、「異なる年度においても  $N_2O$ 発生量は同じような傾向を示す？」などの質問をいただき、研究グループでの見解を回答できた。本会議はオンライン会議であり、2年に1度開催されている World Water Congress & Exhibition とは違って規模も小さく、催し物も少なかったが、世界中から参加ができるという利点も大きかったと感じた。

### 4. おわりに

今回、京都会議記念基金の助成を受け、オンライン国際会議にて研究成果を発表し、いろいろな国・地域の研究者と意見交換をする、有意義な体験ができたことに対し、関係各位に改めて感謝申しあげる。さらなる研究成果を上げるべく、研究活動に取り組みます。